

「下げ止まり」ともいわれる子どもたちの体力。文部科学省が十月に公表した二〇〇七年度の体力・運動能力調査では、中学生こそ向上傾向だったが、小学生は依然、低水準だった。体力不足解消へ専門の家庭教師やハウツーDVDも登場、あの手この手の取り組みが見られる。一方で「過度な競争は体育嫌いを助長する」との懸念も出ている。(四宮淳平)

体育の家庭教師 県のHPに広場 ハウツーDVD

子どもの体力不足 解消へあの手この手



福岡市の公園で、体育家庭教師(右)の指導を受けながら反復横跳びを繰り返す男児

学校から高校までの全学 福岡県。昨年十二月、ホ年、男女いずれも基礎体力が全国平均を下回った「広場」を開設した。

広場には、小学校のクラス単位で縄跳びや馬跳びなどに挑戦し、成績を競う。五十メートル走や相手が入力するコーナー跳びなど八項目の競争意識をくすぐる。若宮西小(福岡県宮若市)の六年の学級は四種目で参加約二千五十クラスのうち、三種目でトッブだ。担任の門田恒之教諭(三宅)は「クラスの団結力が上がった。体を動かすのが嫌だった児童も運動に親しめている」と

体育嫌い助長、格差拡大の

福岡市内の公園で反復横跳びを繰り返す小学二年の男児(三宅)。見守る母親(三宅)は「こやかだ。幼稚園から走り回らない子だったけど、身のこなしが確実に上達している」。これまで「断トツのビリ」だった徒競走も、九月の運動会で六人中四位になった。

福岡都市圏に住むこの男児は八月から週一回、体育家庭教師の指導を受けている。目的は基礎体力の向上。スポーツ用具のほか、坂道や階段も利用して走力や俊敏性を養う。指導する新納尚祐さん(三宅)は「飽きさせない工夫をしています」。目標タイムを決めて計測。細かく記録をチェック

文部科学省が行った1964-2007年の全国体力・運動能力調査によると、2000年代の13歳の持久走(男子1500m、女子1000m)は、最も速かった80年代に比べて15-20秒遅くなっている。また、ソフトボール投げの距離はピーク時の70年代と比べ、11歳男子は約5m、同女子は約4m短くなっている。

- 熊本県 — 優良校を認定し表彰
- 長崎県 — 講座に専門講師派遣

こうした状況を受け、九州では、福岡県以外でも体力アップに取り組んでいる。熊本県教委は昨年度から、授業や学校生活全般の中で体力向上に努めた小中学校や高校を「体力向上優良校」に認定。このうち小中高校などの各1校を「優秀実践校」として表彰している。長崎県教委は、親子を対象にしたPTA主催の体育講座に専門講師を派遣。昨年度は9校が活用し、本年度は20校が利用を予定している。

歩き始めた子新しいものを手にとする。ボールにも大はし人が環境さえ用は自由に動きまわる。そんな遊びの中で自然と運動機能が発達し、体力も身今、そんな地域がどれくらい市化による交通に伴う遊び仲間ムへの熱中...

体力向上へ

各県取り組み

競争で運動意欲

〇六年度の調査で、小